

一杯のカレーライスには、
たくさんの命がつまっています。



ドキュメンタリー映画

カレーライスを一から作る

出演：関野吉晴／武蔵野美術大学 関野ゼミ生

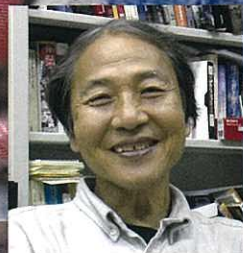
監督：前田亜紀 プロデューサー：大島 新 撮影：前田亜紀 松井孝行 水上智重子 編集：大山幸樹
音楽：U-zhaan 音響効果：金田智子 オンライン編集：池田 聡 整音：富永憲一 製作・配給：ネツゲン

2016年／日本映画／カラー／96分／©ネツゲン

知っていますか。「いただきます」の向こう側

農林水産省

探検家・医師の関野吉晴さんによる武蔵野美術大学の課外ゼミ、通称関野ゼミの2015年の活動は「一からカレーライスを作る」というユニークなものだった。野菜や米・肉はもちろん、スパイスや塩、器やスプーンまでもすべて自分たちで一から作るという途方もない計画だ。関野さんの意図は、「モノの原点がどうなっているかを探していくと社会が見えてくる。カレー作りを通して学生たちには色々なことに“気づいて”もらいたい」この呼びかけに100名を超える美大生たちが集まった。「おいしいカレーが食べたくて…」そんなつもりで始めたが、思うように野菜は育たず、雑草に悪戦苦闘。一杯のカレーのための果てしない道のりに、多くの学生が挫折する一方、世話に励むあまり家畜に愛着が湧き、殺すべきが葛藤する者も…。これは「食べる」「生きる」という、人間にとってごく当たり前で、基本的な営みを見つめ直すドキュメンタリー映画である。



関野吉晴

1949年生まれ。人類の足跡を辿る「グレートジャーニー」の探検で知られる。1999年植村直己冒険賞を受賞。

関野吉晴による「食」の探検 一杯のカレーライスに何を知る？



野菜は？



ヒトは他の生き物を食べなくては生きられない。でも生き物って何だ。そんな単純なことがわからなくなった現代を、食の一切を体験することによって考えなおす衝撃の授業。

… 山極 寿一 (霊長類学者・京都大学総長)



スパイスは？



ひと皿のカレーライスによって社会を解読し、同時に個人の生き方まで問ってくる。なんと刺激的でクールな試みだろう。

… 平松 洋子 (エッセイスト)



塩は？



肉は？

私たちは「たくさんの命」を食らい、自らの命を紡ぐ。今、その命を育む「食」が歪められている。関野ゼミの学生さんたちがこの歪みと格闘する姿は、動物を屠ることを生業とする者として、頼もしく感じる。

… 栃木 裕 (全芝浦屠場労働組合委員長)

たった一皿のカレーライスを食べるのに9カ月もかけるなんて、常人では思いつかない。登場する学生たちの気持ちの移り変わりが観る者の胸を打つ。最後に、カレーライスの匂いが漂ってくるような映画である。

… 藤田 和芳 (大地を守る会 代表)



米は？

この現代社会においてなんと酔狂な。関野さんはいつもながら「遊び」の達人。でも遊びの中にこそ「学び」があると気づかせてくれるのも関野さんなのだ。

… 高野 秀行 (ノンフィクション作家)

www.ichikaracurry.com

